

遺伝解析に基づく糸・織物形質の改善に関する研究

絹糸の形態的特性や物理化学的な特性は、絹糸・絹織物の硬さや伸びなどの物性値に反映される。これまで、感覚的な経験や評価も含め、絹糸の形質には品種間差異があるといわれてきたが遺伝解析に関する知見は少ない。繭糸に自然発生する分離細繊維は絹織物の品質を低下させる白斑（ラウジネス）の成因であることが以前より指摘されているが、カイコ絹糸腺の異常形態と絹タンパク質の異常には関連性が認められており、例外的に計量的な形質として解析できる可能性が高い。分離細繊維の発生機序を遺伝的に解明することで、確実かつ効果的に分離細繊維の発生を抑制して糸質の改善が期待できることから、当研究所の絹糸分析技術と蚕品種交配技術の連携によりデータ収集を行うとともに、当研究所では施設面等から対応できない遺伝子解析については、遺伝解析を専門とする関連大学等との共同研究を行う。

繭糸分離細繊維とは

